

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	9
➤ 会議・イベント案内.....	10
➤ 書籍等の紹介.....	10
➤ 会員募集中.....	11

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### 「桜のある水辺風景 2015」公募終了とお礼

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、今年で6回目となる『桜のある水辺風景』の募集を行い、北は北海道から南は熊本まで多くの皆様より素敵なお写真をご応募頂きました。

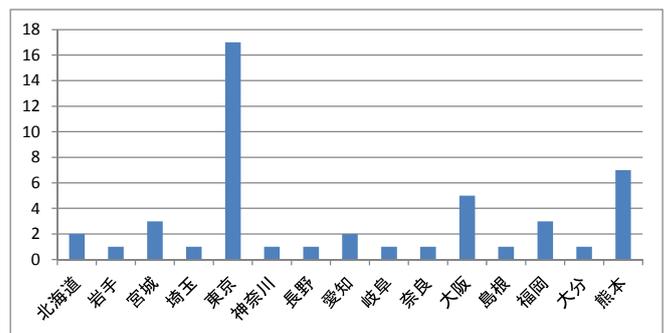
皆様からご応募頂きました桜のある水辺風景写真を通じて、水辺の魅力や美しい日本の春を再認識することができました。今回ご応募頂きました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き JRRN に皆様からのご協力・ご尽力いただけますようお願い申し上げます。

なお、応募頂きましたお写真とコメントを取りまとめた『桜のある水辺風景 2015』写真集を今後編集致します。写真集の完成後、6月中を目標に、以下のホームページ上でご紹介させていただきます。

※以下では過去5回の写真集も公開しております。

◆公開先 (6月掲載予定)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>



ご応募頂いた作品の都道府県別内訳 (全47作品)

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

## ARRN 主催「第 12 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」開催報告(4 月・韓国)

JRRN が所属するアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) 主催『第 12 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が韓国・慶州市にて第 7 回世界水フォーラムのサイドイベントとして 2015 年 4 月 15 日 (水) に開催されました。

- 日時 : 2015 年 4 月 15 日 (水) 14:40~15:40
- 会場 : Hotel Hyundai (韓国・慶州市)
- 主催 : アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)、韓国河川・流域再生ネットワーク (KRRN)、韓国河川協会 (KRA)
- プログラム
- 14:40 開会挨拶 (KRRN 会長、ARRN 会長)
- 14:45-15:00 中国(CRRN)による講演  
順応的河川再生の意思決定システム
- 15:00-15:10 韓国(KRRN)による講演(1)  
河川生態再生に向けたダム下流への土砂供給
- 15:10-15:20 韓国(KRRN)による講演(2)  
Hwanggugi 川の河川生態再生
- 15:20-15:35 日本(JRRN)による講演  
市民と行政の協働による水辺の小さな自然再生
- 15:40 閉会

各講演の概要を以下でご紹介致します。

※全講演資料は以下よりご覧頂けます。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/337>

### 【1】中国 CRRN による講演

- 演題 : 順応的河川再生の意思決定システム
- 発表者 : Dr. Jinyong ZHAO (中国水利水電科学研究所)



ARRN 設立当初より CRRN 運営に携わる Zhao 氏からは、河川再生の順応的管理に向けた 3S 技術(GIS, RS, GPS)を活用した意思決定システムとその適用例に関わる研究発表がありました。

はじめに、河川の生態環境を評価する理論体系を示し、システム全体の仕組みや開発体制、また各評価システムの適用モデルに関わる詳しい説明がありました。更に、実際の現場でのシステム適用事例として、中国南部の Uujiang 川における運用結果が紹介されました。

### 【2】韓国 KRRN による講演(1)

- 演題 : 河川生態再生に向けたダム下流の土砂供給
- 発表者 : Prof. Ok, Giyoung (Hanyang 大学)



Dr. Hongkoo Yeo, KRRN 会長挨拶



Prof. SukHwan Jang, ARRN 会長挨拶



京都大学に留学経験のある Ock 先生からは、ダム下流部への土砂供給による河川環境再生の研究発表がありました。

はじめに、自然河川の変動に伴う土砂供給が多様な生態環境の創出に寄与していること、ダム建設による上下流の土砂バランス不均衡を解消するためにダム下流部への様々な土砂供給対策が実施されている説明がありました。

続いて、健全な流砂系の再生に向け、物理的な土砂供給にとどまらず、土砂供給が生み出す生態的な機能に着目した研究として、ダム下流部の土砂供給により再生された瀬淵と砂利州が生物の多様な生息・成育環境を生み出している結果が紹介されました。

### 【3】韓国 KRRN による講演(2)

- 演題： Hwangguji 川の河川生態再生
- 発表者：Prof. Joo, Jin Cheol (Hanbat 大学)



3年前の第9回 ARRN フォーラムでも講演頂いた Joo 先生からは、韓国・水原市を流れる中小河川・Hwangguji 川再生の話題提供がありました。

急速な都市化で河川環境が悪化した Hwangguji 川では、2003年から10年に及ぶ河川の生態系を回復するための再生事業が実施されたとのこと。この事業では、上流から下流までを、保全、自然再生、レクリエーションなどテーマ別に分割し、各ゾーンで実施された具体の再生メニューについて詳しく紹介されました。

また、事業着手時（2003年）と完了時（2012年）の生物モニタリング調査結果より、本事業が河川生態環境の再生に大きく寄与したことが示されました。

### 【4】日本 JRRN による講演

- 演題： 市民と行政の協働による水辺の小さな自然再生
- 発表者：宮尾徹（株式会社建設技術研究所 / 小さな自然再生事例集編集委員）



日本からは、3月に発行した「水辺の小さな自然再生事例集」を題材に、事例集編集委員メンバーでもある宮尾徹氏が発表を務めました。

はじめに、小さな自然再生とは何か、またそうした取組みが必要となっている背景について解説し、有志による事例集制作チームで議論を重ね事例集を仕上げたことを報告しました。また、日本で現在取組まれている小さな自然再生をより具体的にイメージ頂くため、事例集で紹介しているいくつかの事例について、写真を中心に紹介しました。

台湾やインドの聴講者からは、是非とも自国でも拡めたい素晴らしい活動であるとの意見を頂きました。



終了後の関係者記念撮影

(JRRN 事務局・和田彰)

## 蔚山(ウルサン)広域市(韓国)を流れる太和江(テファガ)の現地視察への参加報告

寄稿者：内藤太輔（公益財団法人リバーフロント研究所・JRRN 会員）

### 1. はじめに

平成 27 年 4 月に、第 7 回世界水フォーラムのサイドイベントとして ARRN 運営会議・国際フォーラムが韓国慶州（キョンジュ）市で開催されました。あわせて、蔚山（ウルサン）広域市を流れる河川、太和江（テファガ）の現地視察が韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)主催で開催され、参加する機会を得ましたので、その概要をご報告いたします。

### 2. 概要

日時：平成 27 年 4 月 16 日（木）

場所：太和江（蔚山広域市）

主催：韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)

目的：悪臭や魚の大量死を招いた水質汚染を改善するとともに、生態系の回復、親水空間の創出にも成功した事例として知られる太和江の現地を訪れ、その現状と蔚山広域市の取組みについて学ぶ。

参加者：約 15 名（主に ARRN 運営会議・国際フォーラムに参加したメンバー）

#### (1) 太和江の概要

今回、現地を視察した太和江は、韓国の南東部に位置する蔚山広域市を流れる、流域面積 644km<sup>2</sup>、延長 46km の河川です。かつては工場排水などにより水質汚染のひどい状況でしたが、現在では、それを克服し、サケやアユが遡上し、全国水泳大会が開催できるまでになり、河川の再生に成功した事例として知られています。

現地視察では、河川沿いの太和江大公園、太和江展望台を回り、市民ボランティアの案内と KRRN メンバーによる説明で、太和江再生の取り組みについて学びました。



蔚山広域市を流れる太和江



市民ボランティアによる太和江大公園整備の説明

#### (2) 蔚山広域市の概要

およそ 120 万の人口を抱える蔚山広域市は、現代自動車をはじめとする自動車、造船、石油化学産業を中心とした企業が集中し、“産業首都”とも呼ばれる韓国で最大の工業都市です。

太和江大公園は、53.1 万 m<sup>2</sup> の大規模な公園ですが、その緑の向こうには高層ビル群がはっきりと見えて、都市部にあることが認識できました。



太和江大公園から見える蔚山のビル群

#### (3) 都市の成長と太和江の水質悪化

蔚山広域市は 1962 年に特定工業地区に指定されたことを契機に、都市化、産業化が進み、人口も 8.5 万人から 100 万人を超える大都市へと成長してきました。しかし、その一方で、汚染排水やゴミの流出により、太和江の水質は大きく悪化し、やがて周囲には悪臭が立ち込めるようになり、人も川から離れていったそうです。そして、2000 年には、魚が大量死し、市民に大きな衝撃を与えました。

#### (4) 太和江の再生

このような背景をもとに、蔚山広域市は本格的な

水質の改善に踏み切りました。まず、下水処理場の建設、支線管渠の敷設、家庭污水管の連結事業を進めることで河川に流入する汚染水を削減しました。

あわせて、河川に堆積した汚泥の浚渫と一日 4 万トンの河川維持流量を確保することで水質の改善を図りました。

#### 水質改善のための事業規模

区分	規模	事業費（億円）
環境基礎施設設置事業	彦陽 6 万 m <sup>3</sup> /日 方魚津 10 万 m <sup>3</sup> /日	2,254
下水管渠整備事業	家庭污水管連結 ：120km、46,000 件 管渠整備：104km	1.204
堆積汚泥浚渫及び河道整備事業	堆積汚泥浚渫 ：8.8km、894km	165
河川維持流量	40,000m <sup>3</sup> /日	98

※太和江パンフレット（蔚山広域市）より作成

これらの対策により、1996 年には 11.3ppm であった太和江下流の BOD は、2007 年には 1.7ppm となり大幅な水質の改善に成功しました。

また、水質の改善にとともに、生物相も回復し、良好な水質を好むサケ、アユの遡上も確認されるようになり、現在では、韓国のアサリの最大供給地にもなっているそうです。かつて汚染の進んだ太和江のアサリが普及しているということは、実際に水質を改善したことに加え、そのことを韓国国内に広く認知させることにも成功していると言えます。

この他、太和江は韓国国内最大のシラサギの飛来地にもなっているそうです。生態系の上位に位置するシラサギが数多く生息できるということは、太和江の生態系の豊かさを表していると考えられます。ちなみに、太和江大公園のシンボルとしてもシラサギのイメージが描かれています。

#### (5) 太和江大公園の整備

水質改善の事業とともに、太和江を再生するための大きな事業として挙げられるのは、都市部における市民の憩いの場であり、親水空間としても機能している太和江大公園の整備です。

現地を視察して、まず目に付いたのは河川沿いに続く大規模な竹林です。“十里竹林”と呼ばれる、この竹林は太和江大公園が整備されるきっかけにもなった象徴的存在です。

この十里竹林は、洪水時に川の流下を阻害し、水位を上げてしまうリスクがあることから、すべて伐採される計画があったそうです。しかし、これを残してほしいという市民からの強い要望があり、公園

との一体的な整備の中で残されることになりました。

現在では、竹林内にも散策路が整備されており、実際に歩いてみると透過する日の光で緑が鮮やかでとても心地よく通り抜けることができました。



太和江大公園の“十里竹林”

#### (6) 広報活動

現地視察で印象に残った内容の一つは、広報活動にも熱心に取り組んでいる点でした。太和江で毎年開催される全国水泳大会は、2000 人を超える参加者があるそうですが、水質の改善を継続的にアピールしていくには有効な手段だと思いました。この他、いただいた太和江の再生事業についてのパンフレットが日本語版であったことにも驚きました。事業で十分な効果があったことが前提ではありますが、事業に対する理解を得て、継続していくという意味で広報活動の意義の大きさを再認識しました。



取組みを紹介する DVD と日本語版パンフレット

#### 3. おわりに

今回の現地視察では、市民ボランティアによる案内、KRRN メンバーによる説明をいただいたことで、現在の状況に至る経緯や背景も理解でき、大変、有意義なものとなりました。企画、当日の運営で対応してくださった Suk-Hwan JANG 教授をはじめとする KRRN メンバーの皆さんには深く感謝申し上げます。



水府流水泳道場跡  
(城東小学校 HP より)



那珂川  
(城東小学校 HP より)



徳川斉昭(烈公)  
(弘道館 HP より)



## あの日のあの川 リレー日記 ～第5話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第5話主人公 金子 貴洋

(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 修士1年  
白川(直)研究室『川と人』ゼミ)  
(□川ガール・■川系男子)  
(出身地を流れる川：茨城県那珂川)

### 『祖父との思い出～水府流水術～』

いつのこと？：小学生のとき  
どこの川？：那珂川

皆さんは水府流水術なるものをご存じだろうか。水府流水術とは、日本在来の游泳術（日本泳法）として日本水泳連盟から公認されている13の流派の一つである。水戸藩藩主だった頼房公、光圀公は泳法の鍛錬を重視しておりこの二人の藩主の下で発達していった。また、それまで武士のみに教えていた水術を庶民の身を守るため一般にも広めるように命じたのが、光圀公ともいわれている。

水府流水術は、一般に「のし」という呼び名で定着し、泳法は横体のほかにも平体・立体・潜水・浮身などがある。先手を搔く上町流は元禄年間に島村孫衛門正広が指南し、先手を伸ばしたままにする下町流は小松郡蔵、荷見守壮が指導していた。江戸時代後期に水戸藩9代藩主である斉昭公が弘道館を開くと、二つの流派を水府流水術として統一し、武術の1科目として奨励した。明治期以後は再び「上町」「下町」の二系統にわかれて広く普及していたが、現在は昭和45年に一本化し、両系統で組織した水府流水術協会が水戸市指定無形文化財の保持団体として伝承・普及に努めている。

何故いきなり水府流水術について説明したのかというと、なんとこの伝統ある泳法が、実は私にも伝承されていたということが発覚したのである。今回このリレー日記を書く事になり研究室の先輩である坂本さんと何について書くかを相談していたところ、「金子君は水戸出身なんだから水府流水術知ってるんじゃないの?」と言われた。確かに「水府」という言葉には聞き覚えがあった。私の通っていた高校の裏には那珂川が流れており、そこに架かる橋の名前が「水府橋」だったのだ。そして私はピンと来た。水府流水術は、昔祖父に教わった「申し泳ぎ」のことに違いないと。

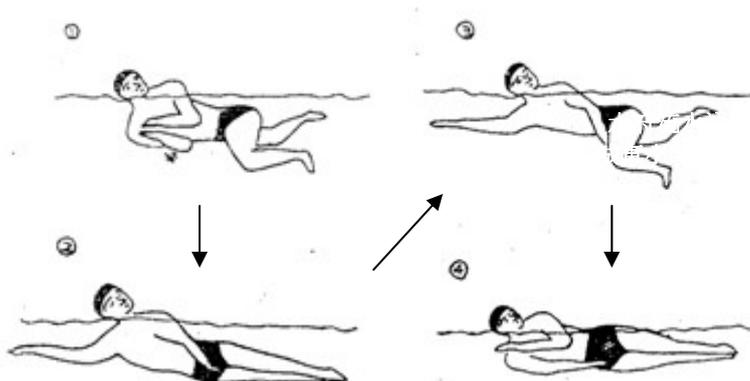
あれは、小学校低学年の夏休みに祖父と妹と3人で近所の市民プールに行った時のことだった。プールではしゃぐ私と妹を見ながら祖父が何気無くした泳ぎこそが水府流水術だった。水の流れに逆らわずぷかぷかと浮きながら泳ぐ祖父の姿を見て興味を示した私は、祖父にこの不思議な泳ぎが何なのか聞いてみた。すると祖父は、「なんだ、貴洋は「申し泳ぎ」のこと知らねえのか？水戸藩のお侍さん達はみんな

なこうやって泳いでたんだぞ」と言い、泳ぎ方を教えてくれた。私の中を流れる水戸人の血がそうさせたのか、すぐに泳ぐことができるようになった。伸し泳ぎは、速く泳ぐことこそ出来ないものの、ゆったりとした動きなのでそれほど疲れず長く泳ぎ続けることが出来た。それからというもの、プールに行ったときには伸し泳ぎをするようになった。とにかく楽なのだ。それに顔は水中から出したままで良いので友達としゃべりながら泳ぐことが出来る。顔を出したままにするのは、日本泳法が元々海や川での戦闘、あるいは護身のための泳ぎであったことに由来しているのだろう。こうして、私にも無事に水府流水術の伝統が伝承されたのだった。ついでに母親にも伸し泳ぎを知っているかメールで聞いてみたところ、「ああ、水府流水術ね。夏休みとかにあんた達をプールに連れてったとき私も泳いでたよ。」と即答され、金子家内での想像以上の認知度の高さに驚いた。母親は小学生の時に先生の中に伸し泳ぎができる方がいて授業で教わったとのことだった。

家族内の認知度の高さに驚きつつ、江戸時代から現在に至るまで水府流水術はどうやって地域の人々に引き継がれてきたのか、また現在でも過去の文化を引き継ぐ場はあるのかを調べてみた。かつて藩内には数か所の道場があり全国にプールが普及した昭和の中頃まで栄えていたそうだ。もしかすると祖父もかつて那珂川で伸し泳ぎをしていたのかもしれない。また、前ページの写真の道場跡は水府橋の近くにあるもので、今でも近くの小学校では水府流水術の講習会が開かれているらしい。

今回リレー日記を任されるに当たり、自分には果たして川と関わった思い出はあるのかととても不安を感じていた。しかし、この日記のおかげで小学生のころに祖父と過ごした思い出を振り返ること、郷土の文化について知ることが出来た。自分の郷土に江戸時代から現在まで伝わる文化があることはとても誇らしく感じる。これからは自分も伝える側の人間になっていけたらと思う。

※水府流水術にはいくつか種類が存在するが、自分に伝承された形は以下のものに近かった



継手伸し (つぎてのし)

- ①図のように足を縮め、両手を胸の前あたりで揃える
  - ②下の手を先に伸ばし、水を煽りながら足を真っ直ぐにする
  - ③下の手で身体の真下を強くかき、上の手は水面と平行にして前に伸ばす
  - ④上の手で身体の前をかき
- 足は手を一回かくごとに一回あおり、①～②～③～④と動作を繰り返す

(安房泳法会日本古式泳法 図解より)

(次は小沼良輔さんにバトンを託します)



大学のプールにて実践！！  
(上図①の段階)



大学のプールにて実践！！  
(上図②の段階)

## 水辺からのメッセージ No.73

岡村幸二 (JRRN 会員)

### 明治期の港産業遺産： オランダ人技師ムルドルの設計による道路・水路を含む港湾都市産業遺産



撮影：2015年3月（熊本県宇城市・三角西港）

#### ◆明治三大築港

明治 20 年に竣工した三角西港は、三国港（福井県）、野蒜築港（宮城県）とともに明治三大築港事業の近代港湾施設です。実際に施工したのは長崎グラバー邸などを手がけた天草の石工達で、その堂々たる石積み埠頭は、今も港の産業遺産として代表的な存在となっています。

#### ◆三角西港の歴史的建造物

港湾施設の埠頭、旧三角海運倉庫、旧三角簡易裁判所、背後地からの排水路など、トータルデザインされた建造物は、国重要文化財、国登録有形文化財の産業遺産群として世界遺産登録を目指しています。

#### ■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）



**(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)**

■2015年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2015年6月10日(水)～11日(木)  
 ○主催：土木学会水工学委員会河川部会  
 ○場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2114.html>

■第7回 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウム in 熊本～河川・沿岸環境の変化と土砂管理～

○日時：2015年6月12日(金)～13日(土)  
 ○主催：応用生態工学会  
 ○場所：熊本市国際交流会館(熊本県熊本市) 他  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2124.html>

■2015 旭川清流シンポジウム

○日時：2015年6月28日(日) 13:00-16:30  
 ○主催：岡山県、真庭市、旭川流域ネットワーク  
 ○場所：勝山文化センター(岡山県真庭市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2130.html>

■第20回水シンポジウム 2015 in ふくい

○日時：2015年8月27日(木)～28日(金)  
 ○主催：第20回水シンポ 2015 in ふくい実行委員会  
 ○場所：福井県県民ホール(福井県福井市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2132.html>

■第8回いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台

○日時：2015年8月29日(土)～30日(日)  
 ○主催：いい川・いい川づくり実行委員会  
 ○場所：東北工業大学(宮城県仙台市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2126.html>

■応用生態工学会 第19回大会

○日時：2015年9月10日(木)～13日(日)  
 ○主催：応用生態工学会  
 ○場所：日本大学工学部キャンパス(福島県郡山市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2128.html>

**(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)**

- 2015.6.15-19(Provence/仏) River Restoration; Geomorphic and Ecological Tools
- 2015.6.22-26(Lyon/仏) I.S.Rivers 2015 conference
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2015.6.30-7.2(Wageningen/オランダ) Int. Conf. on River and Stream Restoration
- 2015.8.2-7(シンガポール) 7th APHW Conference
- 2015.9.21-23(ブリスベン/オーストラリア) 18th International Riversymposium
- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 *Publications*

■ **できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)**

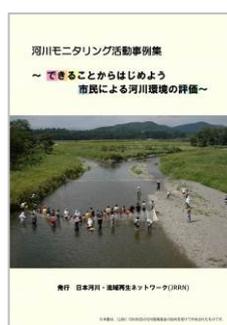
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者と協働制作しました。

■ **河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)**

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ **上記冊子の「印刷製本版」入手方法** ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net) / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。  
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年5月31日時点の個人会員構成  
(個人会員数：697名、団体会員数：56団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

